

# 人間環境大学

平成 20 年度 大学機関別認証評価  
評価報告書

平成 21 年 3 月

財団法人 日本高等教育評価機構



## 人間環境大学

### 認証評価結果

#### 【判定】

評価の結果、人間環境大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしているとして認定する。

#### 【認定期間】

平成 20(2008)年 4 月 1 日から平成 27(2015)年 3 月 31 日までとする。

#### 【条件】

理事会と評議員会の運営方法について改善し、平成 24(2012)年 7 月末までに改善報告書（議事録などの 1 年分の根拠資料を含む）を提出すること。

### 総評

建学の精神「人間環境学」及びこれに基づく大学の使命・目的は明確であり、大学案内、ホームページなどを通じて学内外に示されている。更に、「人間環境学講義」を設け、学生に理解・周知させるための教育にも取り組んでいる。

教育研究組織については、「人間環境学」の理念に沿って 1 学部 1 学科 3 専攻 6 コースという体系が構成され、また教育研究組織に各種の工夫が盛込まれるなど、その充実に努めている。平成 19(2007)年度には基礎的な教養教育を充実する「教養教育センター」も設置され、人間形成のための各種プログラムに取り組んでおり、更なる充実が期待される。また、教育方針などを形成する組織、意思決定過程についても、概ね適切に運営されている。教育課程についても、建学の精神、大学の基本理念に基づいて、「人間環境学」を修得させるための体系化されたカリキュラムが編成されている。また、「主専攻・副専攻制度」と「学科目制度」という特色ある教育方法が採用されており、教養教育と専門教育の統合を狙った特色ある取組みがなされている。

大学のアドミッションポリシーは明確である。学生に対しても、同じ教員が少人数の学生を入学から卒業まで担当するなど、きめ細かな学習支援がなされている。今後は、退学者、留年者を減らす対策を早急に検討することが望まれる。

大学設置基準に定める専任教員数を満たしており、教員構成もバランスがとれている。今後も引続き、教員の採用・昇任規程の適切な運用、及び教員間に教育時間や社会活動などの偏りのない運用などが期待される。

専任の職員数は必ずしも十分とはいえないが、学生対応についての学生のアンケートにおいて高い評価を受けるなど適切に機能している。職員数の確保、資質向上のための研修などに引続き努力が望まれる。

大学の管理運営のための法人組織と教学組織は、それぞれの規程に基づき概ね適切に運営されている。また、両者の連携は経営企画会議を設置し緊密な体制をとっている。自己点検・評価報告書での指摘事項も改善されるなど、大学運営にも反映されている。

予算・決算などの会計処理も適正に実施され、財務情報も大学ホームページなどで公開

## 人間環境大学

されている。一方で、財政面からも学校全体の入学者確保は緊急の課題であり、改善のための中長期財政計画の早期策定と外部資金の積極的な導入などが望まれる。

教育研究を行う上で必要な施設設備の整備・管理が適切になされ、安全性やアメニティについても配慮されている。更に、学生など利用者に配慮した施設の運営管理を期待する。

社会連携については、開学以来一貫して「開かれた大学」を志向し、広く人的資源を社会に提供する努力を続けている。また、岡崎市内の企業や大学間、更に周辺自治体などとの適切な協力関係が構築されている。

社会的機関として必要な組織倫理に関する諸規程が整備され、委員会活動などを通じて教職員に徹底させ適切な運営がなされている。また、学生への緊急行動マニュアル配付などを含め、危機管理体制も整備されている。研究教育成果についても、3種類の「紀要」の公表や「人間環境学シリーズ」(全3巻、勁草書房)の刊行など、積極的に公表されている。

### 基準ごとの評価

#### 基準1：建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

##### 【判定】

基準1を満たしている。

##### 【判定理由】

建学の精神「人間環境学」とこれに基づく大学の使命・目的は明確に定められており、大学案内、学生便覧、「自己点検・評価報告書2003」、ホームページなどさまざまな機会・方法で学内外に示されている。

「人間環境学講義」を開講し、大学の基本理念や使命・目的などの理解や周知をさせるための教育に取り組んでいる。今後は、当該科目を必修化することなどにより、建学の精神などのより一層の浸透を図ることが期待される。

また、大学の基本理念とその実践については、入学者数の減少などもあることから、現実的な社会ニーズなどにも配慮した緊急の対応が期待される。

大学の使命・目的は明確に定められ、人類社会の未来を決する「人間と環境全体の関わりの問題」、現代社会の根底を形づくる「精神とその環境の問題」、これまでの人間環境を形成すると共に将来の基盤ともなるであろう「歴史的な文化環境の問題」の「3つの問題系」に基づく3専攻制と統合された人間環境学によるカリキュラム編成などが実施されているなど、学内外に示されている。

##### 【参考意見】

- ・建学の精神、大学の基本理念などについての説明は十分であるとは言えない。社会的ニーズなどに配慮した対応を期待する。

#### 基準2：教育研究組織

【判定】

基準 2 を満たしている。

【判定理由】

教育研究の基本的な組織については、建学の精神及び大学の使命に基づき「人間環境学」の理念に沿って 1 学部 1 学科 3 専攻 6 コースという体系が適切に構成され、また教育研究組織に各種の工夫が盛込まれている。

人間形成のための教養教育に関しては、専門教育と教養教育の統合を主要な目標に掲げ、教養・人格教育を学部教育の本質と位置づけて力を注いでいる。この独創性豊かな取組みは評価できる。これに加えて、平成 19(2007)年度には基礎的な教養教育を充実することを目指して学長を長とする「教養教育センター」が設置され、メンター制の導入、入学前指導、リメディアル教育などに取り組んでいる。

学習者からの要求に対しては「メンター制度」「プロゼミナール」「演習及び実習」の各担当教員や「FD(Faculty Development)委員会」などを通じて対応しているが、今後も、各種の調査などを通じて必要かつ良質な情報を集め、それを十分に活用してより充実した教育システムの構築に努めていくことが望まれる。教育方針などを形成する組織、意思決定過程については、教育研究の基本的な組織である教授会、「大学院研究科委員会」「運営会議」、各種委員会が整備されており、概ね適切に運営されている。

基準 3 . 教育課程

【判定】

基準 3 を満たしている。

【判定理由】

建学の精神、大学の基本理念に基づいて「人間環境学」を修得させるために「人間環境」「精神環境」「歴史・文化環境」に体系化されたカリキュラムが編成されている。そして「主専攻・副専攻制度」と「学科目制度」という独創的な教育方法が採用されており、学生は個々の興味・関心に従って「講義」「プロゼミナール」「特殊講義」「演習及び実習」と順を追って学修していくことになっている。これらの教養教育と専門教育の統合を狙った教育課程は大学の教育目的に沿ったものであり、特色ある取組みである。

一方、「主専攻・副専攻制度」「学科目制度」などは複雑で分かりにくいので、理念としての「人間環境学」との関連付けや 4 年間の学びの主専攻の決定なども含めて、学生に対して丁寧に指導していくことが望まれる。

新入生に対しては、入学前準備指導、オリエンテーション合宿、メンター制、基礎ゼミナール、人間環境学講義などきめ細かな対応が工夫されている点は評価できる。

授業科目の構成、年間学事予定、履修科目の上限、進級・卒業要件、成績評価などは概ね適切に運用されている。

【優れた点】

- ・教育目的の達成に向けて「主専攻・副専攻制度」「学科目制度」「3専攻6コース制」「全学共通科目」など独自のシステムを構築している点は高く評価できる。
- ・「人間環境学」の理念の下では教養・人格教育が学部教育の本質となっていることを明確化し、専門教育の中に教養教育を融合させている点は独創的であり高く評価できる。

#### 基準4 . 学生

##### 【判定】

基準4を満たしている。

##### 【判定理由】

大学の理念が反映されているアドミッションポリシーは、大学案内、募集要項、ホームページなどを通して明確に示されている。入学志願者及び入学者が漸減の傾向にあり、入学定員割れが生じているが、受験生自らが対話する教員を指名し、双方向的な対話を通じて選抜を行い、当該教員が入試から卒業までサポートする「対話式入試制度」を導入するなど多様な入試が実施されている。

退学者が漸増の傾向にあり、しかも実数としては4年次生が最多である。更に、留年者も漸増傾向にあり、退学または留年事由を学業不振とする者が最多である。しかし、国語、英語のリメディアル教育の実施、合宿形式での英語セミナーの開催など対策が講じられている。また、主専攻・副専攻という特色あるカリキュラムを構成し、同一の教員が少人数の学生を入学から卒業まで担当するなど、きめ細かい学習支援がなされている。

メンター制という学生の健康・心的支援システムが構築され、かつ臨床心理士が必要に応じてインターク面接を行いその後の支援体制を整えている。大学に対する学生の要望を「新入生、在学生大学満足度調査」でくみ取り、調査結果を学生に公開し、要望に沿った改善が実行されている。

就職進路相談室が設けられ、利用者数も漸増しており、就職希望者の就職率は高い。

#### 基準5 . 教員

##### 【判定】

基準5を満たしている。

##### 【判定理由】

大学設置基準に定める専任教員数（教授数、全体数）を充たしている。

教員構成（専任・兼任、年齢、専門分野など）は、一部にやや偏りが見られるもののバランスがとれている。教員は、3専攻6コースにバランスよく配置され、少人数教育に対応している。

教員の採用方針は「教員選考規程」に明文化されている。教員の昇任については客観的な研究業績評価の方法は確立されていないが、「人事審議会規程」に基づき厳正な手続きがなされており、概ね適切に運用されている。

## 人間環境大学

教員の教育担当時間は、担当科目などにより若干偏りがあるものの概ね適切である。研究活動の時間は確保され、またオフィスアワーを設定し授業外での学生との交流の時間も確保されている。

教員の教育研究活動を活性化するための教育研究経費は担当科目分野の特性に応じ、適切に配分されている。

FD(Faculty Development)活動は、「FD 委員会規程」に基づき FD 委員会が組織され、FD 活動の方針が検討されている。「授業評価アンケート」調査の実施を中心に教員の自主的な授業改善に役立てている。

### 基準 6 . 職員

#### 【判定】

基準 6 を満たしている。

#### 【判定理由】

専任の職員数は大学の目的を達成する上で十分であるとはいえないものの、パート職員、契約職員を導入し、全体としては概ね適切である。

職員の採用・昇任・異動については就業規則及び給与規程に基づき適切に運用されている。また、業務評定表により人事考課を実施するなど適切に運用されている。

職員の資質向上のため日本私立大学協会、日本学生支援機構及び愛知県下の私大教務研究会などで実施する担当者レベル及び管理職レベルの研修会に積極的に参加し、その情報を職員間で共有するなどの取組みがなされている。

教育研究支援のため事務局に庶務課、教務課、入試・広報課が設置され、学生部に学生課、就職・進路相談室が設置されている。他に附属図書館、附属臨床心理相談室、人間環境学研究所が設置されており、それぞれに職員が配置されている。

学生支援については、少ない職員数ながらも最大限に努力し、学生のアンケートにおいて継続して高い評価を得ているなど適切に機能している。

### 基準 7 . 管理運営

#### 【判定】

基準 7 を満たしている。

#### 【判定理由】

寄附行為や寄附行為施行細則、組織管理規程、人間環境大学学則、その他の関連諸規程の定めに基づき、役員や評議員の選任、理事会・評議員会の開催及び学長の選任並びに教授会をはじめとする各種委員会の運営が行われており、教育目的を達成するための管理運営体制は整備されている。

法人組織と教学組織の連携は「経営企画会議」を通して、緊密な体制をとっている。大学の管理・運営の業務の中で教育研究に関する業務は、学長に委任され機能分担を明確に

している。学長はこの委任を受けて大学の校務を掌り、所属教職員を統督している。

自己点検・評価は「自己評価委員会規程」の基本的な考え方と活動の進め方に基づき、取組みがなされている。「自己点検・評価報告書 2003」で指摘された事項が改善されるなど大学運営に反映されている。

**【改善を要する点】**

- ・決算については、理事会の承認後に評議員会に報告をしていないので、私立学校法第 46 条に則り、適正な運営をするよう早急な改善が必要である。

**基準 8 . 財務**

**【判定】**

基準 8 を満たしている。

**【判定理由】**

財政基盤の安定化は学生の確保によるところが大きいですが、学園の基幹部門である大学で、3 年連続で入学定員が充足されず学生数が減少している。特に、平成 20(2008)年度の入学定員充足率が大きく低下したことは、大学自ら学生減少による影響を「近い将来大学部門単独で支出超過状態になることが予測される」と報告書に記述するなど、今後の大学及び学園の経営に重要な影響を及ぼす可能性がある。大学部門の過去 5 年間の財務比率に問題はなく、収入と支出はバランスしており、帰属収支差額も生じていることから、緊急の課題として、学生募集力強化のための有効な取組みを期待する。

また、現金預金以外に金融資産を持たず、学生数の減少による運転資金の減少を見通すなど運転資金に余裕のない状態が続いていることから、早急な中長期財政計画の策定とその取組みを強く期待する。

会計処理については、経理規程や学校法人会計基準に基づき適切に行われ、監事による監査と公認会計士による監査も定期的に行われている。また、予算編成に係わる理事会などの審議は、寄附行為の定めに基づき適切に行われている。

財務情報の公開に関しては、ホームページで財産目録、貸借対照表、収支計算書、監査報告書などの閲覧が可能であり、また学内外の関係者には「学園だより」「松韻」など機関誌でも公開されている。

外部資金の導入については、受託事業収入や科学研究費補助金など幅広く獲得に努力することを期待する。

**基準 9 . 教育研究環境**

**【判定】**

基準 9 を満たしている。

**【判定理由】**



## 人間環境大学

教育研究活動を行う上で必要な施設設備の整備・管理は適切になされている。

校地・校舎は大学設置基準を満たしている。教育研究施設として、図書館、PC 教室、建築実験棟、茶室、演習林、実習農場などが整備されている。

特に、大学の理念に沿った伝統文化教育のための茶室「白露庵」や森林環境学、環境保全論、景観文化論などの教育のために演習林や農場を設置して積極的に活用していることは評価できる。

自習室は整備されていないが、図書館や教室を代用するなどの工夫がされている。

施設設備の維持・管理については、危機管理規程や安全衛生管理規程に基づき、各施設に安全衛生管理者を置き、利用者の指導にあたるとともに安全と衛生の保持に努めている。また、各施設にアスベスト飛散の危険性はなく、バリアフリーについても配慮されている。

### 基準 10 . 社会連携

#### 【判定】

基準 10 を満たしている。

#### 【判定理由】

開学以来一貫して「開かれた大学」を志し「市民カレッジ大学開放講座」、名古屋市及び高等学校からの要請に応えた「講師派遣」「人間環境大学公開講座」「公開講演会」など、広く人的資源を社会に提供する努力を続けている。

岡崎市の 4 大学、岡崎市、NPO 法人及び岡崎商工会議所が連携して「岡崎大学懇話会」を設立し、この懇話会を通して企業の要望に応じて「地域活性化フォーラム」「地域活性化研究」編集委員会、「人材データベース公開」「サテライトオフィス大学開放講座」などを開講し、企業や大学間との適切な関係が構築されている。

大学は、岡崎市及び周辺の自治体などの委員会の委員またはアドバイザーとして行政機関に対し支援することで協力関係を構築している。学生は、個人またはサークル単位でさまざまなボランティア活動に参加し地域社会から好評を得ている。

### 基準 11 . 社会的責務

#### 【判定】

基準 11 を満たしている。

#### 【判定理由】

社会的機関として必要な組織倫理に関する諸規程が整備され、委員会活動などを通じて教職員に徹底させ適切な運営がなされている。具体的には、法令遵守・啓発の指針「コンプライアンス・ガイドライン」が定められ、これに基づき「推進規程」「通報細則」が定められている。人権問題に関しては、「人権委員会規程」が定められ人権保護が図られている。研究活動上の不正行動防止についても規程が制定されているなど、組織倫理に関する事項は概ね規定されており、各規程に基づき業務を進める体制も整備されている。

## 人間環境大学

危機管理への対応は、「危機管理規程」が定められている。震災・火災時における「緊急行動マニュアル」が制定され、学生にも簡略した緊急行動マニュアルが配付されている。また、学長の下に危機管理員が置かれており、体制が整備されている。

大学の教育研究成果を公正かつ適切に学内外に広報活動する体制は、3種類の「紀要」が論集委員会の点検を受けて公表されている。これに加えて、「人間環境学シリーズ(全3巻、勁草書房刊行)」を公刊していることは注目される。

### 【参考意見】

- ・ 定期的な消防防火訓練及び地震などに備えた避難訓練の実施が望まれる。

